



National Institute of Technology, Hiroshima College Library

図書館だより 第55号

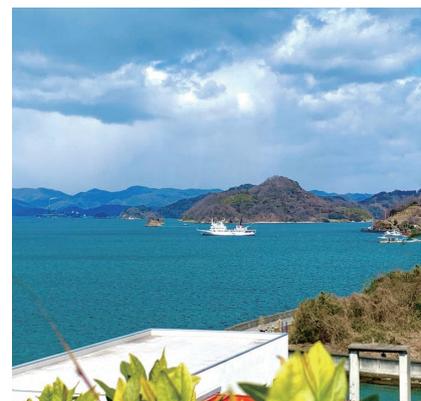
2022年（令和4年）3月31日
独立行政法人国立高等専門学校機構
広島商船高等専門学校



竹原住吉まつり（2016年7月撮影）

目次

<巻頭言>	
様々な役割を持つ図書館、使い方は貴方次第！……	図書館長 風呂本武典 (2)
<トピックス>	
<寄稿>	
若き工学系学生への一冊……	校長 河口 信義 (3)
心地好い人間関係を築く……	一般教科 池田 幸恵 (3)
第22回校内作文・表現コンクール入賞作品……	(4)
最優秀賞……	(4)
優秀賞……	(5)
第22回校内作文・表現コンクール審査結果……	(8)
編集後記……	(8)



<巻頭言>

様々な役割を持つ図書館、使い方は貴方次第！

図書館長 風呂本 武 典

学校の「図書館」で、何するところ？何のためにあるの？本が置いてあって貸してくれる、勉強する場所、寝る場所（ライ!?）色々な答えがあるだろうし、使ったことないから考えたこともないワ、という学生諸君も居るだろう。

実は図書館にもちゃんと分類がある。日本図書館協会によれば「大学図書館は、その大学の学生・教職員の学習・研究に必要な資料を保存し提供する組織です。近年は、資料の提供だけではなく情報発信、学生の情報利用を支援するプログラム、地域の公共図書館支援、地域住民への開放や情報提供など、さまざまな活動を行っています。学校図書館は、学校のカリキュラムを支援し豊かにすることを目的として設置されるもので、日本では「学校図書館法」により、すべての学校に図書館の設置が義務づけられています。子どもたちが生きていくうえで必要な情報獲得能力を身につけるとともに、読書の楽しみを知る手助けをする重要な役割を担っています。」とされている。

高専図書館は…分類がない。しかし学生諸君の年齢とカリキュラムを考えれば高専図書館は学校図書館と大学図書館両方の機能を併せ持つ必要があるだろう。文科省によれば学校図書館は、「読書センター」とし

ての機能と、「学習センター」としての機能とともに、「情報センター」としての機能を有している、とされる。つまり読書の楽しみから始まり最終的には卒業研究や様々な情報の利活用まで出来ますよ、という訳である。

そのために図書館は易しい読み物から研究に必要なものまで多くの機能を満たす幅広い蔵書を目指している。さらに収蔵資料や蔵書は単なる読み物ではなく研究に必要なものとして、時間を超えて保存提供する役割をも持っている。図書館に収蔵された文献等はそれ自体が時間経過とともに歴史的な価値を持つ。それらは地域に蓄えられた情報・知識の財産として利活用され地域貢献にも繋がっている。本校図書館はこのように実に様々な役割を担っているのである。

図書館のメニューは多彩でありどれを選んでも構わない。使い方は貴方自身である。せっかくの設備と機能を使いこなせば学校生活の中できっと貴方自身に新しい発見や気づきがあるだろう。図書館で難しい本を読んで勉強しなければと特別に気負わなくても、ちゃんとライトノベルから映画アニメのDVDも揃えているので息抜きでも構わない。ちよいとスマホから離れて図書館をのぞいてみては如何だろうか。

（表紙の写真）竹原住吉まつりは、毎年7月末頃開催される江戸時代から続く伝統的な海の祭りです。住吉神社の例祭に当たります。本川沿いに子ども絵提灯や夜店が並び、川面に映るきらびやかな神輿渡御などが行われます。2018年は豪雨災害で中止、2020、2021年はコロナ禍で中止と最近は残念ながら中止が相次いでいます。今年は無事に開催されて、川面に映る提灯の灯りや仕掛け花火などを再び見ることができれば良いですね。

（2016年7月31日夜に撮影）

<トピックス>

文献検索ガイダンスを実施しました

6月24日（木）、図書館のラーニング・コモンズにおいて文献検索ガイダンス（講師：電子制御工学科 浜崎淳先生）を実施しました。このガイダンスは、おもに5年生、専攻科生の希望者を対象に毎年開催しています。

文献調査の重要性や、ネット検索と文献検索データベースの違い、本校で利用できるJDreamIIIの使い方などの説明がありました。受講者の皆さんが今後の学習に活用されることを期待します。



若き工学系学生への一冊

校長 河 口 信 義

大学1年生の時に受けた哲学の授業で、「哲学とは“～する。”と言うことを基本に考える学問です。」と言う第一回目の授業だけ出席し、その後はクラブ活動の時間と重なったために全く授業に出席できなかった。単位認定は「哲学に関する書を一冊読んで感想を述べよ」と言うレポート提出であったことから何とか単位はクリアできたものの、今から思えば「授業を受けていたら良かったな」と誠に残念に思っても後の祭りである。

若くして亡くなられたと伺った。

就職して20年ほど経って、今の自分が専門としている“航海技術”の歴史や立ち位置を調べている折に、図書館の蔵書を眺めていてフッと手に取った一冊で「アッこれは学生時代に受けた哲学の先生の本」と思ってパラパラとめくると、その中身や古代から始まりギリシャ・ローマを経て近代に至る“科学技術”に関する先生の思いが込められた一冊であったので、直ちに借りて読み始めたところ世界史の知識が大いに不足していることに気が付いた。そう言えば学生時代に入試科目の日本史を選択したため世界史の知識は中学から進歩していなかった。そこで、良い機会と思って併せて世界史の勉強も行ったのでひと夏以上かかったと記憶している。その後も機会ある毎に数回は読み返していて何時も手元に置いておいた本であるが、残念な

がら前の学校の図書館に返却した。

“科学”とは“分科された学問”と言うギリシャ時代の哲学者アリストテレスに始まり、その時代の哲学は感覚や経験を含み存在・神・精神に関する形而上学から自然科学全般である形而下学まで科学全般であったようである。こうした哲学を学校と言うか私塾のようなところで教えたり勉強したりしていたのであろうが、その後ヨーロッパにおいてこのような科学に関する学問が大学の基となる学校に引き継がれ、主にキリスト教に関する神学・人が暮らすための規律である法学・病気を治療するための医学を専門科目として教えており、加えてそれら専門科目を学ぶための基礎知識であるリベラルアーツ（教養学部）の4つであったようである。なーんだ、「大学のオオモトは職業訓練学校ではないか」と言うことがわかり、あるいはその後の数々の大建造物を残しているローマ時代では“科学”の進展はほとんど見られなかった一方で、“技術”はすさまじく進展したこともわかり、今まで科学技術に携わってイッパシの科学者気取りであったことが気恥ずかしくなった。自分の無知さを再認識させてくれることも多く書かれており、是非とも工学系の学生あるいは研究者の皆さんが出来るだけ純粋で頭が柔らかい時に読んでおくべき一冊である。

～「科学思想史」坂本賢三著 岩波全書セレクション～

心地好い人間関係を築く

一般教科 池 田 幸 恵

今回、学生の皆さんにお薦めしたい本として思い切って「漫画」を取り上げたいと思います。始めは、私自身が学生時代にアメリカ文学を専攻していたことから、研究対象であったフィッツジェラルドの作品や、ノーベル文学賞を受賞したフォークナーやヘミングウェイの作品といったアメリカ文学小説が頭に浮かびました。今でこそ小説は文学の中の一つのジャンルとして当然視されていますが、19世紀に入るまでは小説は文学とは見なされておらず、低俗なものとして扱われていました。教師が学生に小説を薦めるなど考えられないことでした。小説は英語では“novel”ですが、この“novel”という語は「新しい、奇抜な」という意味の“new”に由来しています。文学とされていたのは「詩」であり、詩よりも後に登場した小説という

新しい表現ジャンルは劣った低俗なものと思われていたのです。時代の流れの中で小説は地位を高め、やがて文学として受容されるようになりました。その後、新たな表現ジャンルとして「漫画」が出現しました。かつて小説の受容がそうであった様に、漫画は文学とは見なされず、小説よりも劣ったものとして扱われました。このように新しいものはその新しさ故に人々に受容されるまでに時間がかかり、本質や普遍性とは関係なく劣ったものとされることがあります。長々と語ってしまいましたが、つまり言いたいのは、漫画は小説より劣ってはいない、小説ではなく漫画をお薦めしてもいいのではないかとということです。私が学生の皆さんに紹介したいのは、佐々木倫子著による『動物のお医者さん』です。タイトルは『動物のお医者さん』

ですが、実際の内容は「動物のお医者さん（になるため学んでいる学生たち）」です。大学3年で研究室に配属されて以降が主な話の舞台となっており、「研究室漫画」としても読むことができます。現実世界ではありえないような「破壊の神様」と呼ばれるハチャメチャな指導教授が出てくる一方、試験、実習、卒業研究などの描写はとてモリアリステックです。学生の皆さんが共感できる部分が多くあると思います。

この作品は、コメディタッチで描かれていることを加味しても、不思議なほどに心地よく読めます。その心地好さの理由は漫画内の人間関係にあると思われます。それを象徴するのが、物語の終わり方で、主人公が

友人の二階堂が卒業後一緒に動物病院を開業しないことを知って言う次のセリフです。「そうですね…二階堂がいなくなってひとりで診察ができるかと考えると…ま、できるだろうなと思うんですが。ひとりではどうも勢いがつかないですよ…」自立した人間として個で生きていくこともできるが、他者とつながって生きていこうとする。孤立するのでもなく、依存するのでもない。個でありながらも他とつながる。この関係性にこそ本作の魅力があります。皆さんが学校生活や寮生活の中で人間関係に悩むことがあるかと思います。そうした際に、この漫画の人間関係の在り方が示唆となることができれば幸いです。

～「動物のお医者さん」佐々木倫子著～

◆◆◆ 第22回校内作文・表現コンクール入賞作品 ◆◆◆

社会の実況をどう捉えるか

最優秀賞

流通情報工学科1年 石原里菜

『私は私のままで生きることにした』キム・スヒョン 著

著者は韓国で生まれた。ごく普通に生きてきた中でありのままでいくということと社会における自分の立場のギャップに悩んでいた。そして著者は自分自身を認めて愛する方法見つけている。また著者が実際に感じとった社会を読んで私自身どう捉えたかを書いてみる。著者の体験談で感心した二つをセレクトしていく。

まずは一つ目、タイトルは「もっと堂々と胸を張ろう。」だった。その話は子どもの頃に観た「成功時代」というテレビ番組だった。それを観ているとどんなに困難な状況でも努力で乗り越えて成功できるという気持ちにさせられた。だけど著者が大人になってみるとそれらは能力主義の始まりということを感じたのだ。現実には能力や努力はさまざまな要因の中のひとつにすぎないと思った。そこで著者はこう考えた。「努力＝能力＝成功」という等式は「怠惰＝無能＝貧困」という等式に自動的に変換される。要は貧困の原因を努力が足りないと個人のせいにして差別と階級を正当化している社会がある。だけど周りを見ればお金持ちの多くは運が良かったり、遺産などによる元手のおかげで稼いだ人たちだと分かる。一方で貧しくてもまじめに正直に生きている人達だって少なくない。このようにして世の中には恥ずべき富があるように誇るべき貧しさもあると著者は説いた。

私は著者の考えを読んでみて納得することばかりだった。例えば今のコロナ禍での経済状況はほとんどの企業が不況に陥っており、皆が平等ということはさらに難しくなっている。だからこそ「努力＝能力＝成功」という等式は違うのではないかと感じた。

そして二つ目は、「人生から数字を消そう。」という

タイトルだった。また、著者の暮らす韓国は、世界に比べて、数字というのは何かの基準に必ず登場するものらしい。なぜかという各国の中流層の基準を表す際、イギリスやフランスは常に公正に振る舞うこと、ひとりよがりにならないこと、ひとつ以上のスポーツを感じる事など、人間が豊かな心と生活ができるようなものだった。反して韓国はというと、百㎡のマンションを所有すること、一億ウォン（約一千万円）以上の預金残高があることなど数字にしばられた基準ばかりであった。

こうして著者はこういう風に考えた。私達人間は何でも数字に置き換えるのが好きで、自分自身の価値を格付けすることすら自然に受け入れてしまう。数字の人生というのは常に比較されて順位をつけられる人生ということになる。だけど本当の価値とは数字で測れるものではなく友達の数で人間関係の深さは証明できないし、年取でその人の人格が分かるわけないと著者は説いた。それらを読んでみて私は確かに数字はすぐ身近にあって簡単に比較できて順位を決めやすいという特徴がある。だけれど数字にとられすぎるのも良くないと思った。自分が数字というものにはまるのではなく、数字で表せないもののなかにある幸せを自分がどう見つけるかに目を向けてみたら、新しい発見があるのではないかと考えた。

自分がこの本を手にとった時著者はなぜこんなにも自分らしく生きるための方法を考えているのだろうと思ってた。けれど読んでいくうちに私が目を背けていたことばかりで社会に出る前に私が自分らしく生きる方法をこの本を通じて考えられて良かったと感じて

いる。そしてこの本こそ自分の世界が広がった貴重な本となった。まだまだ私には経験しないとイケない事がたくさんある。けれどそれらは悪い経験もあるだろう。それでも自分らしさとは何か物事をどう捉えていくべきなのか考えることが自分の価値観、人生観を豊

かにしていけることだと信じて今日も私は私のままで生きることにしていこうと思う。そして本をもっと読んでみたいと思った。ありがとう。キム・スジョンさん。これからの人生が少し楽しくなってきたかも知れない。

合言葉

優秀賞

商船学科1年 大下真博

『面倒だから、しよう』 渡辺和子 著

私がこの本を手にとった理由はこの本の題名である「面倒だから、しよう」という日本語が不思議だと思ったからである。本来なら「面倒だから、しよう」ではなく、「面倒だから、よそう」の方が日本語としては正しい。この「面倒だから、しよう」という言葉に私は心を惹かれ、この本を読もうと思った。

この言葉は作者の渡辺和子さんが面倒さがり屋の自分に言い聞かせるための言葉である。渡辺和子さんは一九三六年の二・二六事件に巻き込まれた。目の前で父の錠太郎さんの命を奪われ、九年後に焼け野原の東京で受洗してクリスチャンになり、その後修道女になられた。今ではベストセラーになった「置かれた場所で咲きなさい」の著者や岡山のノートルダム清心女子大学学長、同学園理事長、日本カトリック学校連合会理事長になられた方として知られている。この本では目の前で父の死や修道女になった後の人間関係やウツなどの病気を乗り越えた渡辺和子さんの言葉が自身の体験と合わせて三九個紹介されている。その中で私が特に心を惹かれた言葉をいくつか紹介しようと思う。

「価値があるから生きているのではない。生きているから価値がある」私はできないことがあり、悩むことがよくある。私以外にもできないことがあり、悩むことがある人も世の中には居ると思う。そんな時たくさんの方が「人間、生きているから価値がある」と自分自身や他人にそのような気持ちを持つ優しさ、無条件の愛を持つことが大切になることを教えてくれる言葉である。

「この世に雑用という名の用はない。用を雑にした

時に生まれる」私はこの言葉を見てその通りだと思った。つまらない思いながら作業するとつまらない時間を過ごすことになり、つまらない人生になっていってしまう。生きていく上では、嫌なこと、したくないこと、欲しくないもの、気に入らない相手など、数々の自分にとってありがたくない物事に向き合わないといけない。つまらない仕事を、つまらなくない仕事に変える術を身につけることが楽しい人生を送るための鍵になるのかもしれない。時間の使い方は、いのちの使い方。このことを忘れてはならない。

「許さない間は相手の支配下にある。自由になるために『思いを断ち切る事』が大切」もし相手に自分にとって嫌なことをされても仕返しをしてはいけない。仕返しをしてしまうとスッキリするかもしれないが、その後に相手を傷つけてしまったことへの心の痛みを味わわなければならないになってしまう。相手を許すことが自分の心の痛みを癒すことができる一番の方法である。相手を許すことは自分のためにもなる。仕返しは、自分のレベルを下げる愚かな行為である。私も気を付けようと思う。

この三つが私の心に残った言葉である。私が紹介した言葉以外にもこの本に書かれている言葉すべてが宗教に関係なく心に刺さるものであった。考え方によって人生が良い方向に、逆に悪い方向に進んでいくことがあるということが分かった。この歳でこの本に巡り会えて本当に良かったと思う。「面倒だから、しよう」今日から私の座右の銘である。

『「のび太」という生き方』から感じたこと

優秀賞

流通情報工学科2年 西原実夢

『「のび太」という生きかた』 横山泰行 著

私は一年前の四月二十九日の朝刊に、「大丈夫。未来は元気だよ。」というドラえもんからのメッセージが記載されていることを知った。そこにはコロナ禍で希望が見えない五里霧中な私たちに向けた言葉だった。多くの人はこの言葉に励まされ感動した。さらに「のび太になろう」5月のこどもの日にはのび太君も

加わり子供達へ向けたメッセージも届けられた。でもなぜこれらの言葉がそんなにたくさんの方の心を動かしたのか。それは“ドラえもん”というアニメが長い間老若男女問わず愛されてきたからだと思う。また22世紀の未来を知っているドラえもんからの言葉だからこそ現代の人々の心に響き安心を与えたのだと思う。

幼い頃何気なく見ていた“ドラえもん”だけど今もお、多くの人から人気を博しているのはなぜなのか気になり、物語が私達にどのような影響を与えているのか知りたいと思った。

まず私はこの本を読む前、のび太はすぐに秘密道具に頼る弱い男の子だと思っていた。だけどそう見えてしまうだけであって、のび太はその前必ず自分で立ち向かっている。よくあるジャイアンやスネ夫にいじわるされる場面では、ドラえもんからすぐ秘密道具を借りるというイメージだ。だがすぐに借りている訳ではなく、まず自分でどうやったら勝てるか、解決できるかを考えて立ち向かっているのび太の行動力に気づいた。また秘密道具を借りることが悪いのではなく、秘密道具を使うことで自信につながり挑戦できるという利点があることも分かった。また秘密道具を使うと必ず成功する訳ではなく、失敗に終わることもある。それは、叶う夢と叶わない夢の違いを読者や見る人に伝え自分でコツコツ努力することの大切さを教えてくれていることを知った。何事も行動しチャレンジするのび太の生き方は素晴らしいと思った。

次に、当たり前の人間関係こそ大切にするということ。映画「STAND BY ME」でのび太はドラえもんと別れることになってしまう。だが普段からドラえも

んとの関係を大切に生活してきたから急な別れがきてもきれいな形で終わることができたという。今は、コロナ禍で、会いたい人に会えなかったり、急な別れが来る事だってあると思う。普段から人間関係を大切に精一杯生き、感謝を伝えていく事が大事だと教えてくれているのだなと思った。

のび太は一見すると、失敗の連続だけど夢を叶え勝ち組のび太へと成長していく。この本は、ここで紹介した二つ以外にも、実は人生の勝ち組であるのび太君の生き方が記載されており、私達の人生に役立つヒントを与えてくれている。アニメだけでは気づけない部分を、この本では過去の話を含めて解説されていて、のび太君の行動、ドラえもんが出す秘密道具には一つ一つ意味があったのだと思った。のび太君は全然ダメな男の子って見えるけど、自分の未来を変えるために一生懸命努力している、みんなの幸せを願ったりするなど、素敵なお男子だと気づいた。背伸びせず、自分らしく生きることの大切さを知れた。この本を読んでからさらに“ドラえもん”が好むけど、自分の未来を変えるために一生懸命努力していきになったし、なぜ今もお愛されているのか分かった。高校生になってドラえもんと離れつつある今、一度は読んで見て欲しい本。

『青の数学』を読んで

優秀賞

流通情報工学科3年 下幸茂 美月

『青の数学』 王城夕紀 著

「数学って、なに？」

この言葉に私は心を惹かれました。

私がこの本を読もうと思ったきっかけは、読書感想文の課題が出され、何の本を読もうかと本屋さんで悩んでいたところ、何冊も本が並べられている中で、「数学」という二文字に一瞬にして目を奪われたからです。というのも、私は小学校から現在の高校三年生の約十一年半の間、今まで学んできたどの教科よりも数学が一番好きだったからです。「数学」という言葉に目を奪われ、手に取り内容紹介の文を読んだとき、衝撃が走りました。

「数学って、何？」

今まで一度も考えたことが無かった問いかけに、「数学」とは何なのか、知りたいと思ったので、『青の数学』を読むことにしました。

この『青の数学』という物語について説明すると、雪の日出会った女子高生は数学オリンピックを制した天才でした。その少女、京香凛の問いに、栢山は困惑します。「数学って、何？」一。若き数学者が集うネット上の決闘空間「E²」。全国トップ偕成高校の数学研究会「オイラー倶楽部」。ライバルと出会い、競う中で、

栢山は香凛に対する答えを探します。ひたむきな想いを、身体に燻る熱を、数学へとぶつける少年少女たちを描いた青春小説です。「数学」という教科は、授業を受けていたり勉強をしていたりしても「将来、何のために役に立つのだろうか？」と考えることがあると思うし、私自身も度々思うことがありました。国語は、言葉や相手の心情を学ぶ上で役に立つし、英語はグローバル化しつつある日本でも将来必ず必要となってくるなど、他の教科は学んでいて意味があると思えます。それに対して数学は、XやYなどの入った公式を使って問題を解きますが、この行動は社会に出てもほとんど使う機会はありません。

この本の最後に、「本当の数学って何？」という問いかけに対する答えとして、「新しい過程を見つけ出すこと、作り出すこと」と書いてありました。私はその文から、数学を学ぶことは、数学そのものではなく、答えにたどり着くまでの過程を学ぶことに意味があるのだと思いました。答えを出すには、どの公式を使うなどといった、答えにたどり着いた根拠となるものを見つけ出す必要があるからです。これは、仕事にも通ずるもので、プレゼンをする際に、自分以外が納得で

きるような考えを、筋道立てて説明する必要があります。つまり、数学を学ぶことは、論理力を学ぶことにあるのだと思いました。

この話では、「数学とは何か」という疑問について向き合うが、「才能とは何か」という疑問にも度々向き合います。私はこの作品を通じて、誰にでも才能はあると感じました。私はこの部分が一番印象に残りました。なぜなら、この作品を読んで、才能は相手がこうだからとかこの人がこう考えているからとか、他の人を基準に考えるのではなく、自分の考えや、自分がどうしたいかを一番に考えるべきだと思ったからです。やっぱり人間なら誰しもこの人すごいとか、なぜあの人にはできて自分にはできないのだろうかとか一度

は思うことがあると思います。私も実際に中学生の時、何かを選ぶ際にこの人はこれを選んだから自分もこれでいいやとか、なぜこの人よりバスケがうまくならないのだろうか、何度も思うことがありました。自分の意見は後回しにすることや、相手のことを意識し過ぎて自分が何をしたいのか、何をすべきなのか、自分のことについて考えることはとても少なかったです。また今はもう、自分は何をしてもできないからとあきらめて、何をやるにしてもやる気は無く、なんでもいいやと投げやりになっていました。しかしこの本を通じて周りはあまり関係なく自分が何をしたいのかを一番に考え、自分のために生きたいと思えました。

「生きるということ」

優秀賞

電子制御工学科 3年 荒木隼明

『ライオンのおやつ』小川糸 著

自分に余命が宣告された時、人はどんな気持ちになるのでしょうか。おそらく私は悲観的になり、あらゆることに対して投げやりになると思います。後悔の念もたくさん出てくると思います。今の私にとって、死ぬということは怖いものでしかありません。でも、一週間後、一か月後に私が生きているのかというと、そんな保証は一つもないのです。人生は何があるかわかりません。

この物語は、がんで余命を告げられた海野雫という女性が、瀬戸内海に浮かぶ通称「レモン島」にある、「ライオンの家」というホスピスに来るところから始まります。

雫はまだ三十三歳で、若くしてがんを患い、これまでにいろいろな辛い治療を受けてきました。しかし、その効果もなく、余命があとわずかだと言われ、様々な心の葛藤の後、ホスピスに入ることを決意しました。私にとってのホスピスは、死を待つ人が入居する、人生最後の場所という、寂しく暗いイメージでした。ところが、「ライオンの家」はそれとは異なり、ほのぼのとして安らぎに満ちた、温かい空間でした。ライオンは百獣の王、つまり、敵に襲われる心配もいらない、ここでは安心して食べたり寝たりすれば良い。これが名前の由来で、唯一のルールが、「自由に時間を過ごす」というものでした。ここがホスピスだということを忘れてしまうくらい、明るい印象なのです。

「ライオンの家」の最大の特徴は、毎週日曜日の午後三時にある、おやつの時間です。これは事前に入居者から募った、人生の思い出のおやつのリクエストの中から一品が選ばれ、再現されたものが全員にふるまわれるという、みんなが楽しみにしている行事です。

そして、おやつを食べる前には、そのおやつに対する入居者の思いが紹介されます。名前は明かされなくても、その思いを聴くと、誰からのリクエストかわかるのです。戦争で貧しかった時代に母が作ってくれた甘いものであったり、憧れた外国で食べたお菓子であったり。入居者の人生が垣間見えるようでした。

一方で、雫は自分のリクエストがなかなか書けませんでした。やがて、入居者が亡くなっていく様子を見て、自分にも近づいてくる死への恐怖と向き合いながら、人生をふり返り始めます。生きることをあきらめて入ったホスピスで多くの人と出会い、話をする中でもっと生きたいという欲が出てきます。そして、おながすくということは生きてるからこそであり、食べることは生きることなのだ気づきます。人は死を待つ時間に、今までどう生きてきたか、残された時間をどう生きるかと考えることで初めて、自分で自分の死を受け入れられるのかもしれない。

もし私が人生で最後のおやつを選ぶとしたら、何にするだろうと想像してみました。物語の中で心に残った文章があります。雫の亡くなった母親の言葉で、「何が大きかって、今を生きている、ってことなの。自分の体で感じること。目で見て感動したり、触ったり、匂いを感じたり、舌で味わったり。」これらは、生きていて体がなければできないことです。明日が来ることは当たり前ではなく、当たり前のことに感謝することの重要さが伝わってきました。

ホスピスが舞台の「死」がテーマの物語なのに、生きることについて考えさせられました。私の一日一日を大切に、当たり前だと思っていた小さなことにも感謝して生きたいと思えるようになりました。

第22回校内作文・表現コンクール審査結果

最優秀賞			
社会の実況をどう捉えるか	流通情報工学科	1年	石原里菜
優秀賞			
合言葉	商船学科	1年	大下真博
「のび太」という生き方から感じたこと	流通情報工学科	2年	西原実夢
青の数学を読んで	流通情報工学科	3年	下幸茂美月
生きるということ	電子制御工学科	3年	荒木隼明
特別賞			
「生」の痛み	電子制御工学科	1年	日熊くるみ
「昔話法廷」を読んで	流通情報工学科	1年	八崎匠
父が残した一冊の本	流通情報工学科	2年	赤田桜優
『わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か』を読んで	商船学科	2年	梶原良太
マニュアル通りの世界で生きること	流通情報工学科	3年	行友光葵
佳作			
主人公との意外な共通点	電子制御工学科	1年	小椋渚生
憧れ	商船学科	1年	栗原成主架
「1%の努力」を読んで	商船学科	2年	河田彩登
捉え方の違い	商船学科	2年	古田健太郎
リアル	商船学科	3年	嶋津朋子
入選			
変なおきて	流通情報工学科	1年	小川寿恵
私のおすすめ	流通情報工学科	1年	中下陽菜
多様性について考えて	商船学科	1年	佐伯紅梨
人と人をつなぐ	流通情報工学科	1年	鎌田祐華
思考	電子制御工学科	1年	古川慎貴
あと10年しか生きられないとしたら、あなたは何をしますか？	流通情報工学科	2年	濱田果穂
今、あなたが環境のためを思って気をつけていることは何ですか。	流通情報工学科	2年	宝寄美友
紡ぐ	商船学科	2年	南波夏海
「天才」を取り戻すためには	商船学科	2年	玉置洪晟
卓球戦術ノートを読んで	電子制御工学科	3年	多田浩基
死体安置所にてを読んで	流通情報工学科	3年	安部風輝
『せつない動物図鑑』を読んで	電子制御工学科	3年	鈴木航一郎
人工知能ってそんなことまでできるんですか？	商船学科	3年	岡林慧
理想と現実	商船学科	3年	小田袈方
批判的思考から見たメロス	流通情報工学科	3年	吉野虹汰

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

今号には、令和3年度の新任の先生2名からご寄稿いただきました。お忙しい中、記事をお寄せいただき、ありがとうございます。今年は2年ぶりに「校内作文・表現コンクール」を実施することができました。運営にご協力いただきました国語科教員及び審査員の先生方に御礼申し上げます。受賞者のみなさんおめでとうございました。ここで取り上げられた図書については、図書館に揃えていく予定ですので、この機会に、是非一度手にとってみてください。

◇編集発行：図書館運営委員会（令和3年度）：風呂本武典（図書館長・流通情報工学科）・朝倉和（一般教科）・加藤由幹（商船学科）・田上敦士（流通情報工学科）・吉田哲哉（電子制御工学科）

◇〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野4272-1/TEL：0846-67-3007

◇ホームページ：https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/facility/lib.html